

世田谷西部支部

天理教世田谷西部支部（東麻分教会内） 発行責任者 馬場 理 編集 支部編集部

令和5年2月1日発行

〒157-0065

上祖師谷7-20-6

TEL 3300-5653

2月

☆支部行事のお知らせ

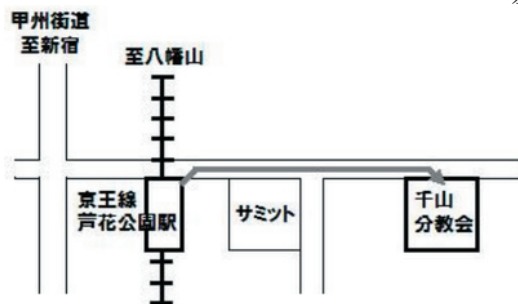
- ・支部幹事会
2月28日（火）10時より
例会と併せて行います
会場 千山分教会
- ・教区ひのきしん
2月19日（日）午前9時半～
3組1名
- ・婦人会例会
2月17日（金）10時より
会場 本露分教会
（北沢5-38-28）
TEL 03-3466-8092
- 内容 初例会

世田谷西部支部
ホームページ
https://tenrikyou-setagayaseibu.jimdofree.com/



2月支部例会

- 日時 2月28日（火）10時～
- 会場 千山分教会（南鳥山2-32-1）
TEL 03-3300-5826
- 会長 高橋政和
- 内容 参拝の後、支部長挨拶、各部各会からの連絡事項、講話
- ※例会後、「みんなでひのきしん」
- ※幹事会も例会にて実施とします
- 交通 京王線 芦花公園駅
徒歩5分



秋の叙勲・褒章

らんじゅほつしょう

藍綬褒章を受章

支部相談役の高橋和夫氏（77歳、千山分教会前会長）は、長年にわたり保護司として更正保護活動に尽力した功績を称えられ、令和4年秋の褒章にて、藍綬褒章を受章されました。

誠におめでとございました。

※天理時報12月21日号に既報



巻頭言

副支部長 滑川 善久

皆様方におかれましては日々お道の御用におたすけに誠にお疲れ様で御座います。

又支部活動におかれましても、お力添えを頂きまして誠に有難う御座います。

いよいよ立教186年を迎え、教祖140年祭に向かつての三年千日が始まりました。コロナ禍になり何にも出来ない自粛の三年が過ぎ、私達お道に繋がる者に何が出来たのか、思案の為所だと思えます。

何もしないでも三年が過ぎます。向かう所の三年間、何が出来るのかを思案いたしまして、出来る事を探して一つ一つコツコツと日々積み重ね勤めさせて頂く事が大切なんだと思います。

去年御本部秋季大祭において、真柱様から御発布頂きました諭達第四号にもお示し下さいましたように、

「ようぼくは、進んで教会に足を運び、日頃からひのきしんに励み、家庭や職場など身近なところから、にをいがけを心掛けよう。身事情で悩む人々には、親身に寄り添い、おつとめで治りを願ひ、病む者にはおさづけを取り次ぎ、真にたすかる道があることを伝えよう」

と有ります様に、私達は日々一つ一つ勤めさせて頂きましょう。

すると、その真実の心を親神様に受け取って頂き、不思議な自由の御守護をお見せ下さいます。

そして、この積み重ねが子から孫へと末代続いていく道になって行くのです。私達に分かりやすくお示し頂きました諭達第四号をしっかりと心に納めさせて頂き、来る教祖百四十年祭を迎える時には親神様に御安心頂けます様に勤めさせて頂きましょう。



各部各会年頭挨拶

教務部 高木一茂

いよいよ年祭活動の幕開けとなりました。

とにかく何事にも勇んで取り掛かることを念頭に置いて、この三年間を通らせていただきたいと思います。

本年もどうぞよろしく
お願いいたします。



青年会 坂口裕司

日頃より支部活動にお力添えいただきまして、誠にありがとうございます。

私は今、埼玉県で単独布教しており、支部での青年会活動に十分な形でお役にたえず申し訳ありません。埼玉の地に在りながら、先々で世田谷西部支部の皆様のもとで芽をはやしていただけるように、いっそうの努力をしていきたいと思います。

しばらく先のこととなりますが、私が世田谷西部支部に安定していさせてもらえるようになりましたら、一手一つに教祖のひながたをたどり、にいがけ・おたすけに共々に邁進させていただければ幸いです。よろしくお願いいたします。

婦人会 五百木博子

日頃は支部婦人会の上にお力添えいただきありがとうございます。

新型コロナウイルスに翻弄された三年間でしたが、昨年後半より少しずつ規制が緩和された状態での御本部大祭、月次祭がつとめられました。それに伴い、各会の行事も開催され、婦人会では三年ぶりに四月に支部の代表者のみではありましたが婦人会総会、十一月には女子青年大会が制限なしで行われました。また、教区では委員長講習会、女鳴物講師勉強会が開催され大いに勇ませていただきました。

久しぶりに開催された行事に参加された方々の声から、皆が一手一つにつとめるところに勇み心が生まれることを実感し、意義深く感じました。

立教一八六年、教祖一四〇年祭の三年千日がスタートします。

論達にお示しくくださる真柱様の思いをしっかりと心に治めて、それぞれの持ち場・立場に応じた努力を積み重ねさせていきたいと思いますので宜しくお願いいたします。

女子青年 坂口友理

私は今年の春に大学を卒業します。新しい環境への不安と期待を抱えつつ、身の引き締まる思いです。

この四年間を振り返ると、その学びの中には日頃の天理教信仰に通じることも多くあったように思います。私が学んだ総合文化政策学は、どのようなものも見方次第で文化になりうる可能性の集合であるとする、寛大な学問です。すべての物事に対して多角的な視点を向けることは、つらく悲しい出来事も神様からの導きであるというお道の教えに似ています。

大学で学び、また天理教の教えに触れることで、何ごとも前向きに受けとめ、明るく陽気に生きていくためのヒントを得たように思います。新しい環境でもこのことを忘れず、勇んでいきたいと思えます。

最後になりますが、今年も皆様が多幸でありますようお祈り申し上げます。

少年会 橋本涉

いよいよ三年千日は始まり、それぞれが目標を持って歩み出しを始めたことと思います。

私は教祖が最もお喜びくださることの一つは、「信仰を次代に繋げること」だと思っています。論達にも「親から子、子から孫へと引き継いでいく一歩一歩の積み重ねが、未代へと続く道となる」とあります。

私の教会では昨年、独自で夏のおちばがえりを計画し、こども食堂を利用して一般の子ども達を連れて、おちばに帰りました。企画段階では「こども達の開催がない中で子ども達をどう楽しませればいいのか」と不安もありましたが、おちばの小規模のアトラクション、詰所での楽しみ行事、駅前公園や健康ランドなど、大いに楽しんでくれて、この冬休みにも13名の地域の子ども達をおちばにお連れしました。

何事も最初は「大丈夫かな」と不安がつきものですが、この三年千日に勇気をもって動き出し、旬の喜びを味わわせていただけたよう、お互いに子ども達への丹精に努めさせていただきましよう。本年も宜しくお願いいたします。

支部報 岡庭正浩

昨年は支部報編集の上にお力添えいただき、まことにありがとうございます。

さて、立教186年を迎え、教内は140年祭へ向けてスタートを切りました。支部報編集部では、そうした教区や支部の動きを伝えることで、一人一人が前へと進んだり、教会が元気になるお手伝いをしていただけるよう努めさせていただきます。

今後とも、これまで同様にホームページと連動してわかりやすい情報共有を目指してまいりますので、お力添えの程、よろしく申し上げます。